



正解のない問いに
自分ならではの考えを表す

認定ファシリテーター 石井 信成さん

私たちは先生ではなく、あくまで情報提供者。知らないことで無駄に不利益を負う生徒を少しでも減らしたい。そんな想いをもって活動しています。

最初は「いったい何やるの」と半信半疑な生徒達が、ワイワイしながらワークを進める中で、近い将来に来る現実を知り、表情を変えていく。そして正解が無い問いに、自らの個性や環境と向き合いながら、今の自分ならではの考え、想いを表す。生徒達の多様な発信から、私たちが気づきを得ることも多くあります。



リアリティに前のめりになる
生徒たちの変化が醍醐味

認定ファシリテーター／キャリア・ファシリテーター協会

山本 美保子さん

まだお金に無頓着な高校生が、おそらく初めて学ぶであろう「お金の基礎知識」。

未来の暮らしを漠然と考えていた生徒たちが「生きていくために必要なお金とは?」「どんなふうに働いて、どんなふうに暮らしたいか?」と、抜群のタイミングで次々と課題を与えるゲームのようなプログラムを通し、段々リアリティを感じ前のめりになっていきます。

その時の生徒たちの反応や表情の変化を感じることがファシリテーターの醍醐味でありやりがいを感じています。



大学生もだんだん真剣に
現実的な感想が印象的

認定ファシリテーター 加賀谷 晴美さん

私は勤務する大学で、毎年1年生の春に計400人の学生と一緒にMoneyConnection®を行っています。

いつもの授業と違う雰囲気、最初は子供っぽいことをやらされていると感じているようですが、どんどんプログラムの流れに引き込まれ、気づけば働く時間と遊べる時間の計算に真剣です。バースト(破綻)も実際に体験することでかなり現実味を増します。

「実家暮らしだったので一人暮らしのイメージができて良かった。」「結婚して家族を持つことと働くことが今まではつながっていなかった」など感想も現実的です。



人生に影響を与える授業
やりがいを持って活動

認定ファシリテーター 萩原 義子さん

50分間でどれだけ心に残る情報を伝えられるのか? 毎回身が引き締まる思いで参加しています。

初めは、内容に興味を示しながらも感情を余り表に出さない生徒達が、だんだんと変化していく姿に毎回気付きと感動を覚えます。

ワークを通して何に価値観を見出すのか? 少なからず人生に影響を与える仕事に関わらせていただける事に感謝しながら、やりがいを持って活動しています。



当たり前のように
話題にならない「お金」のこと

認定ファシリテーター／岩手銀行 内藤 晶さん

ある生徒さんが「普段生活しているのにこんなにお金がかかるとは思わなかった。両親に感謝したいと思う」と話してくれたのが印象的でした。

「お金と仕事」という、当たり前のように実は家庭でも話題になることが少ないテーマについて、興味を持って考え始めるきっかけとなることを願い、プログラムを実施しています。

若者の無業化予防をめざした金銭基礎教育プログラム

MoneyConnection®

2018年度プログラム運営年次報告書



働き方が多様性を内包する令和の時代に

2019年4月1日の段階で、大学生の就職率が97.6%、高校生で98.1%と、若い世代の就職状況は非常に高い水準となっています。その一方、離職率は高止まりし、仕事に就けない無業の若者の割合は変化がありません。

就職しやすく、働き方が多様性を内包する令和の時代において、自分の人生に確固たる価値観を創ることができないままでは、守ってくれるものがない自由度の高い社会で浮遊してしまうリスクを負っているとも言えると思います。

MoneyConnection®は、お金・働くこと・生活・自分の価値観を考えることで、若者たちが自分の将来と真剣に向き合うきっかけをつくることを目的としています。まさにこれからの社会を歩む若者にとって、

認定NPO法人育て上げネット 理事長 工藤 啓

最も必要なプログラムとなっています。

認定ファシリテーターの皆様は、これまでの人生経験を活かし、未来予測が困難な時代を生きる若者の人生に影響を与え得る存在です。彼らが希望という光を持って、道なき道を自ら照らして歩いていけるよう、小さなきっかけを与えられる努力をともにしていきましょう。



自分の価値観を知る大切さ

金融教育は「金融リテラシーを身につける」という文脈で説明され、実践されることが多いようです。生活環境や経済・社会環境がこれまでにないスピードで変化し、グローバル化やさまざまな技術革新が進むなか、生きていくうえでの選択肢が増え続ける今の時代は、金融の分野に限らず、自分で判断し意思決定することを求められる時代でもあります。判断や意思決定にはリテラシーが必要ですが、自分が何を大切だと考えるかで判断や意思決定が左右されることを考えると、自身の価値観を知っておくことはリテラシーを身につけると同じように重要でしょう。

MoneyConnection®は「金銭基礎教育」と謳っています。「お金と仕事」のリアルを知り、将来をイメージすることで自分に向き合い、自

株式会社新生銀行 グループ IR・広報部 GM 幡野 浩之

身の価値観を知る。自分の責任で判断や意思決定が求められる今の時代に「自分が自分であるための大元の部分＝基礎」に気づく機会になり得る。MoneyConnection®は15年近い歴史を持つ成熟したプログラムですが、まさしく「今」求められるプログラムといえるのではないのでしょうか。

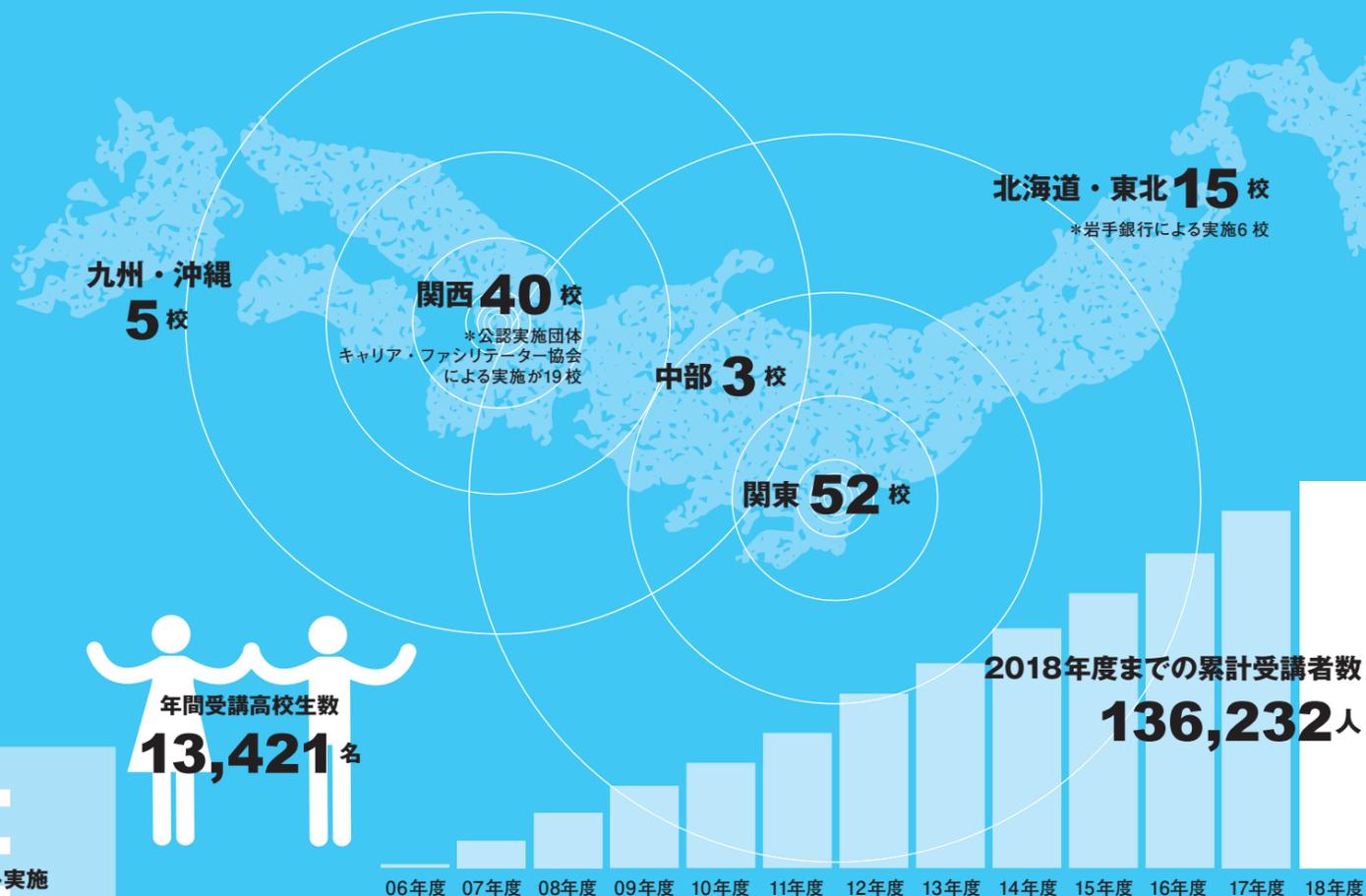
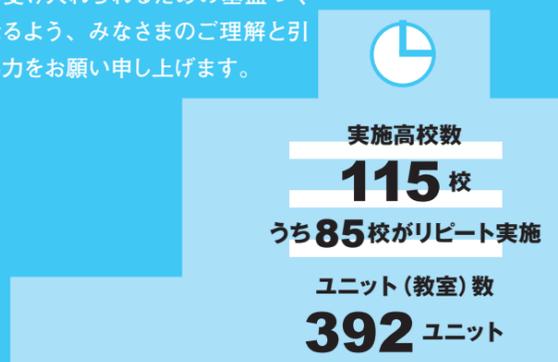
ここ数年の傾向として、MoneyConnection®は学校と支援の現場をつなぐ役割も担うようになってきました。時代の要請や多様化する社会に従ってプログラムを取り巻く環境は変化してはいますが、MoneyConnection®が変わらず信頼されるプログラムであり続けられるよう、新生銀行グループでは今後も企業としての知見や専門性を活かしながら支援を続けてまいります。

2018年度は従来の進路指導や家庭科教育などにおける出張授業・プログラム活用だけでなく、高校連携事業などにおいて、生徒・学校と若者支援者が相互理解を深め、信頼関係を築くことができる「機会としての価値」が評価され、今後への期待が膨らみはじめた年になりました。事業目的に「無業化予防」を掲げる本プログラムとしては本来的な存在意義が確立しつつあります。これはプログラム力だけでなく、プログラムを提供する「ファシリテーターのあり方」によるところも大きいと改めて感じるところです。ファシリテーターのみなさまの日頃のご準備とご努力に改めて感謝申し上げます。

こうした成果を受けて、2019年度はファシリテート力向上元年と位置づけてまいります。本事業の基盤となる「若者と社会をつなぐ」という育て上げネットのミッションに則り、生徒・若者が「望まない無業状態に陥ること」の予防（選択肢として「相談してみる」という手段も伝えること）という目的を明確にし

た取り組みを実現するためには、生徒・若者から「受け入れられる」かわり方が必要です。「教えない、教え込まない」「価値観を押し付けない」とはということか、認定ファシリテーターはどうあるべきか、それらを具体的に言語化し、年度内にみなさまと共有させていただき予定です。

MoneyConnection®は2020年に提供開始から15年を迎えます。本プログラムのさらなる普及・発展に向けて、今一度、出張授業の品質を見直し、より多くの生徒・若者、そして学校に受け入れられるための基盤づくりの一年となるよう、みなさまのご理解と引き続きのご協力をお願い申し上げます。



MoneyConnection®

たくさんのメディアに掲載されました。

●中日新聞 2018.10.23 朝刊



2018年10月18日に、滋賀県立石部高校で実施した授業の様子が紹介されています。記事中には、生徒たちの声として、「奥さんも稼いでいたら大丈夫」「この頃にはマイホームが欲しい」などが掲載され、活発に行われた授業の様子がよくわかります。

*記事・写真等は中日新聞社の許諾を得て転載しています。

●朝日新聞 DIGITAL 2018.4.18

●毎日新聞 2018.4.18

4月17日(火)、茨城県牛久市の少年院「茨城農芸学院」にて実施された MoneyConnection® の様子が朝日新聞 DIGITAL と毎日新聞に掲載されました。「民間団体と協働したこのような取り組みは全国初」と紹介されています。

●Webメディア「クリスクぶらす」2018.5.14

「1カ月の生活費を知ったのはいつのことだろう…金融教育プログラム MoneyConnection® が目指す、誰もが輝く未来の形」と題した記事が掲載されました。MoneyConnection® の実施責任者・深谷友美子へのインタビューです。

<http://plus.clisk.com/article/2792.html>

●RITA LABO (リタラボ) 2019.3.10

立命館大学稲盛経営哲学研究センター RITA LABOにて、プログラムが紹介されています。

http://www.ritalabo.jp/edunpo/2_26/

取り組み PICK UP

「そんなんや」から孤立を予防する……大阪・高校連携の取り組み

●コネクションズおおさか*の高校連携(2018年度実績)

大阪市内13の高等学校で出張授業を実施
延べ1416名が参加
支援サービスにつながった高校生13名。
(うち2名が正社員として就職決定)

「そんなん知らなかった」。こんな声が聞こえるたび、「よしっ!」と思う「コネクションズおおさか*」高校連携担当の山田純輝です。2018年度も多くの生徒にプログラムを届けることができました。これも事務局からの無理難題に応えようご尽力くださるみなさまのおかげです!

このプログラムを届ける目的は、将来を考えるための「情報」を提供すること。知らないことを考えたり、選んだりすることはできません。みなさまから情報を受け取った生徒が、お金と仕事について知り、将来を考えるきっかけにしてくれることを願っています。そして、なんだか楽しそうな大人を目にすることで「大人って案外悪くないな」と思ってもらうことも大切なテーマです。相談できる大人と繋がれると、若者の未来は大きく変わると実感しています。2019年度もプログラムを通じた生徒との接点を大事にしながら、ひとりでも多くの若者をサポートしていきたいと思ひます。

*大阪市委託の若者自立支援事業

新学習指導要領を見据えた研修会でデモンストレーション実施

2018年8月6日、新学習指導要領施行を見据えた、大分県内の高等学校勤務の家庭科教員対象研修会に参加。デモンストレーションを行いました。参加者は49名。そのうち18名の先生から教材活用のお申し出をいただき、うち2校で出張授業が実現しました。本研修会への参加は、大分県在住の認定ファシリテーター様のお取次ぎにより実現したものです。

教職員向けのプログラム紹介は、大阪市内の4つの高等学校、ならびに大阪市若者自立支援事業「コネクションズおおさか」での大阪市立高等学校向け合同説明会でも行いました。また、家庭科におけるプログラムの活用は、当該校のほか、さいたま市立浦和高等学校、京都府立工業高等学校などで定着しつつあります。

長崎県で初めての出張授業が実現しました!

2018年11月20日、長崎県立鳴滝高等学校 定時制課程夜間部において、2年生・3年生20名を対象に家庭科の授業の一環として出張授業を実施しました。長崎県での出張授業の実施はこれが初めてとなります。